

事例報告書 の書き方見本

事例提供者 北海 花子 作成 平 29年 6月 3日

1	氏名 北海 太郎 性別 男 中学 学年 3 家族 父（会社員）、母、弟（小4）	
2	主訴・症状: 不登校	
3	今までの経過: 小学校、中学校1年までは普通に登校し仲間ともつきあいができていた。 2年5月の中体連剣道部の選手選抜から外れ、補欠になったあたりから登校を渋り、夏休み以降、友だち、教師の誘いにも関わらず不登校が続いていた。3年の4月には、進学と言うこともあって始業式から4日連続登校したがその後全く登校していない。	
4	学業成績 など	1年次は全教科ともクラスの間くらい。2年次はほとんど欠席の状態テストも受けていない。好きな教科は英語。
	出欠状況	1年次はほとんど欠席は無かった。2年次は、6月初旬から休みはじめ7月以降は全休。3年になって4日のみ出席。
	身体状況	小学校4年から町の剣道場に通り稽古。身長は普通だが、運動神経も良く、頑健。
	進路希望	一年時に、大学進学を目指し、◎◎高校希望と述べていた。
	部(サークル)活動	剣道部。父も剣道をやり、町の武道館に通っている、時折、本人も一緒に行っているとの情報がある。
	調査・検査(テスト)結果	1年次に実施した「アセス」で、特に生活満足感が低かったと前の担任から聞いた。
	外部機関との連携(診断)	休み始めた当初、近くの診療内科に通う。特に原因が分からないと言うことでその後、診察を中断。
5	本人の性格、友人関係 行動特徴: 3年になって新たに担任になったため、良く理解できていない部分が多い。前担任からの聞いた話では、明るく友だちづきあいも良かったとのこと。ただ、自分から積極的に語りかけていく方ではなく、受け身の姿勢であった。宿題などはきちんと忘れないで提出し、掃除当番なども真面目にやっていたとのことである。	
6	保護者の子供への関わり、学校対応: 父親は会社員、母親は生協のレジのパート。2人とも教育熱心であるが、不登校になった当初は診察に連れて行ったり、何とかしようと努力していたが、不登校状態が改善しないことから、諦めて本人の自覚を待つと言いながら、放任の傾向も伺える。時折、剣道に誘うなど一緒に行くこともあるそうだが、外出はそれくらいの様子。弟は活発で兄とは正反対のようだと言った家庭訪問時に母親が述べてた。	
7	指導、援助経過: 2年次の担任と剣道部顧問が話し、選手に選ばれなかったことが原因だとすれば、わがままな性格の表れだとして、来年を目指すことなどを強く促した。両親とも面談して説得をお願いしたようだ。そのうち出席も定かなくなり、夏休み前には完全に登校しなくなった。病院にも行ったが回復の見込みもなく、両親も諦めた様子である。	
8	事例提供動機: それまで教科でも接することもなく3年になって初めて担任した。聞いたおおよその経過は記述した通りである。新担任として進学のこともあり、どう接していくのが最良であるか全然めどが立たない。本人へお関わり方を知りたい。	
9	その他、特記事項: 本校に2年前に転入。この4月から担任。	